

平成 22 年 5 月 15 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2009

課題番号：19320031

研究課題名（和文） 日本近代と「南方」概念 造形にみる形成と展開

研究課題名（英文）

Concepts of "The South" (*Nanp*) in Modern Japanese Art: Formation and Development

研究代表者

丹尾 安典 (TANO YASUNORI)

早稲田大学・文学大学院・教授

研究者番号：00129058

研究成果の概要（和文）：

本研究は、日本の近代文化における「南方」概念の形成を、その視覚表現において分析し、日本の造形文化の展開に及ぼした影響を考察する基礎的な研究である。

調査の対象は、沖縄、台湾、東南アジア等をふくむ広範囲な地域にわたる「南方」である。そこで生成した多様な「南方」の視覚表象を、データベースの作成をすすめながら総合的に検証し、これらの成果に基づいて「南方」イメージの形成と変遷を具体的に考察した。

研究成果の概要（英文）：

This research project examines the formation of the concept of "The South" in modern Japanese culture from the perspective of its visual representation, analyzing its impact on the development of Japanese plastic arts and material culture.

"The South" under consideration here covers an extensive region, including Okinawa, Taiwan, Southeast Asia, etc. In addition to creating a database of archival sources and images, this project provides a comprehensive examination of the formation and development of a wide range of visual representations of "The South".

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
2008年度	5,600,000	1,680,000	7,280,000
2009年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
総計	13,900,000	4,170,000	18,070,000

研究分野： 美学・美術史

科研費の分科・細目： 美学・美術史

キーワード： 美術と南方 沖縄 台湾 脱文明 エキゾチズム

1. 研究開始当初の背景

日本の近代における「南方」は、領土や植民地の拡大といった政治経済的関心の向けられる場であると同時に、様々な文化

的交流によって育まれた、多くの造形表現の生まれる場でもあった。しかし、前者の関心を中心とした研究は蓄積されているものの、文化、とりわけ造形表現を主眼とした研究は

ほとんど進められていなかった。

近年の近代日本美術研究の動向をふりかえると、近代日本の国家形成、とりわけ国民文化の一翼を担う存在としての美術のあり方がしばしば問題とされてきた。それは、造形作品を作家個人の内的要因のみに帰するのではなく、社会や思想の動向からとらえなおし、より深い作品理解に到達するところみであり、また造形を導いた思想のありかをさぐる探求であった。こうした趨勢は、近代日本史や思想史研究の成果による分析・考察の活用を可能とし、「南方」についても、新しい研究の視座をもたらしている。

美術界における「南方」への関心の高まりは、昨今とくに展覧会のかたちで実を結びつつある。たとえば2002年に開催された「土方久功 日本+南洋の表現展」(高知県立美術館)2007-08年の「パラオ ふたつの人生 鬼才・中島敦と日本のゴーギャン・土方久功 展」(世田谷美術館)2008年の「美術家たちの南洋体験」(町田市国際版画美術館、高知県立美術館、沖縄県立博物館・美術館)などを、「南方」への注視を示す例として挙げることができる。

とはいえ、こうした「南方」イメージの探求と「南方」概念の考察は、いまだ限られた作家や作品を対象とすることが多く、より広範な造形表現と概念との総合的な研究が必要であるとの認識のもとに、この申請研究は開始された。

2. 研究の目的

本研究は、日本の近代文化における「南方」イメージの形成を、その造形表現において分析し、日本の造形文化の展開に及ぼした影響を考察するものである。沖縄、台湾、東南アジア等をふくむ広範囲な地域にわたる「南方」を調査の対象とし、そこで生成した多様な「南方」の視覚表象を総合的に検証し、これらの成果に基づき「南方」イメージの形成と変遷を具体的に検討する。

3. 研究の方法

(1) 研究の主な成果

南方資料データベース

南方のイメージを形成が進んでいく経過を検証するために、日本で刊行された新聞、美術雑誌に掲載された記事及び図版を採録したデータベースを作成した。主要な美術雑誌(『美術新報』、『みづゑ』、『アトリエ』ほか)及び新聞記事(『近代美術関係新聞記事資料集成』ゆまに書房、1991年を利用)について、明治から昭和戦前期に

いたる時期の調査を行う。

データベースはDVDに複製し、検索や画面表示を簡便にし、効率的な画像・文献資料の利用を可能にする。このデータベースをおさめたDVDによって、総ての調査成果を研究参加者で共有した。

(2) 研究会の開催

研究分担者・参加者による研究会を年3回程度開催した。研究会ではデータベースを積極的に活用した研究発表を行い、研究メンバー以外の招聘、参加も積極的に行った。

(3) 報告書の作成

研究の成果を、各分担者・協力者の論考を加えた報告書としてとりまとめ、この報告書に新聞・雑誌から採集した記事や図版のデータベースをDVDに収録して添付した。より広範囲の研究者の利用に供するため、この報告書を今後の研究の基礎資料として関係研究機関に配布する。

4. 研究成果

(1) 南方資料データベース

明治から昭和戦前期までを対象とし、一般の南方イメージの形成に大きな役割を果たしたと思われる言説やイメージを集積し、データベースを構築した。これらの成果は、図版はデジタル画像として収集し、資料として検索できるように整備している。

時代とともに日本人の南方認識は変化するので、調査の際、どの地域までを「南方」に含めるかという問題が浮上したが、これによって近代日本における「南方」概念のゆらぎが逆照射された。本調査研究においては、「南方」に含まれる地域をせまくしぼりこむことはさけ、可能性の幅を広くとった。したがって、なるべく広範な地域に及ぶ情報を採録するよう方針を定めた。すなわち、日本近海の大島、小笠原諸島、沖縄、南洋諸島、オーストラリア、南極、インド、アフリカ、南アメリカを対象とした。

また、新聞記事収集のほか、大規模な展覧会 文部省美術展覧会(含帝展)、日本美術院展、農商務省展(のち商工展)で発表された南方イメージを示す作品の図版を収集し、これらの画像及び一覧も作成した。

以上の調査では、当初想定した以上の情報を発見することができた。これら初めて集積される情報から、南方の地域的偏差や経年変化に新たな知見を得ることができた。

なお、新聞記事採録にあたっては奥間政作が中心となりながら、瀧井直子、向後恵里子、喜多孝臣、杉江京子、白政晶子、石井香絵、岡本小百合、磯野愛が補助作業に当たった。雑誌採録については池田香織、川合夏子、敷

田弘子、藤代友子が作業に当たり、森仁史がデータ整理にあたった。

研究会の開催

研究分担者・参加者を中心に研究会を開催した。研究参加者の研究成果の発表によって、参加者全体の資産として共有成果の公表との研究の進展と公開をはかった。開催日時と内容は以下の通りである。

平成 19 年

7月7日(土)〔会津八一記念博物館〕

- ・ 丹尾安典「八重山古陶解説」

10月6日(土)〔早稲田大学文学学術院 31号館 310教室〕

- ・ 谷田博幸「八重山のなかのヤマトウ御嶽と鳥居」

12月22日(土)〔早稲田大学文学学術院 31号館 310教室〕

- ・ 森仁史・奥間政作「南方資料データベース調査報告」
- ・ 岡谷公二「沖縄の御嶽(オタキ)から済州島の堂(タン)へ」

平成 20 年

7月19日(土)〔早稲田大学 31号館 310教室〕

- ・ 奥間政作「沖縄戦と美術」
- ・ 岩切信一郎「南方をテーマにした子ども絵本 - 昭和 17 年 (1942) - 」

11月8日(土)〔早稲田大学文学学術院 31号館 310教室〕

- ・ 阿利直治「八重山の古陶について」

11月29日(土)〔早稲田大学文学学術院 36号館 6階 682教室〕

共同研究会「南方概念に関する共同研究会 - 日本統治下の台湾美術をめぐって - 」
(司会：森仁史)

- ・ 諸葛正「日本領有時期における台湾木工芸産業、製品の印象に関する変化の実態」
- ・ 李淑珠「台湾ローカルカラーの戦時動員」

3月5日(木)〔石垣市まちなか交流館〕
共同討議「南方文化研究報告会 南方の祭儀をめぐって」

パネリスト：丹尾安典・谷田博幸・岡谷公二・阿利直治
スタッフ：向後恵里子・尾崎有紀子・喜多孝臣・奥間政作

平成 21 年

6月27日(土)〔會津八一記念博物館および早稲田大学文学部 31号館 310教室〕

- ・ 「戦争画の相貌--花岡萬舟連作--」展見学と解説(丹尾安典)
- ・ 増野恵子「明治初期の地誌に見られる南方イメージ 『輿地誌略』を中心に」

10月31日(土)〔早稲田大学文学部 31号館 310教室〕

- ・ 渡邊俊夫「日本風景としての台湾と南洋論：植民地主義とナショナル・アイデンティティ」

11月28日(土)〔早稲田大学文学学術院 31号館 310教室〕

- ・ 安松みゆき「表現主義の画家マックス・ペヒシュタインにとっての南洋と日本」

研究成果報告書

研究の成果であるデータベース、論文を成果報告書として編集、平成 21 年度に発行した(内容は5の「主な発表論文等〔雑誌論文〕」～を参照されたい)。

(2) 得られた成果の意義と今後の展望

データベースと研究発表、論文を通して、日本近代における「南方」イメージ群の様相が具体的かつ実証的に明示された点が、本研究の最も大きな成果である。

こうした成果によって、日本近代における「南方」概念の基本的性格と特殊性、またその相互作用がより鮮明になった。基本的性格とは、西洋から輸入した近代的文明史観を用いて、「南方」を未開の地として、帝国主義・植民地主義的に見るまなざしである。特殊性としては、東アジアに位置しながら沖縄・台湾・南洋諸島へと領土的に拡大してゆく地理的状况、前近代の清を中心とした東アジア地域の政治・文化体制の中で半文明の国として出発し、徐々に列強と並び立たんとする歴史的状况、また西洋文化と東洋文化、前近代と近代のせめぎあいが存在する思想的状况などが挙げられる。日本近代における「南方」概念は、こうした基本的性格と特殊性が複合的・重層的にまじりあい、折々に表象されてきたものである。

本研究における大きな成果は、「南方」という概念のなかで展開される日本の造形文化の特質を考察する基盤データが形成されたことであろう。

基礎的なところみである本研究は、「南方」の全貌を明らかにし、「南方」とは何か、という問いに完全にこたえるものではないが、そうした問いに立ち向かう視座と土台は築いたはずである。この基盤から、今後、さらに美術史、日本史、文化史等の多角的な「南方」研究が遂行されてゆくことが要請される。

それは、日本のなかに位置しながらも歴史的文化的背景を事にする沖縄の今後や、台湾、東南アジアと続く地域と日本とのあいだに開かれてくる未来と深いつながりを有しているからである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計16件)

森仁史、「南方」イメージ形成に関する試論 日本のアジア・イメージのなかで、研究成果報告書、査読なし、2010、pp.4-13

青木茂、美術家たちの「南洋群島」、研究成果報告書、査読なし、2010、pp.14-18

阿利直治、戦前の琉球陶器研究 壺屋焼を中心に、研究成果報告書、査読なし、2010、pp.19-27

岩切信一郎、南方を題材とした児童図書出版と赤松俊子、研究成果報告書、査読なし、2010、pp.28-39

岡谷公二、南方の意味 西と東、研究成果報告書、査読なし、2010、pp.40-48

谷田博幸、「人類館事件」をめぐる言説、研究成果報告書、査読なし、2010、pp.49-66

丹尾安典、八重山古陶の歴史と位置づけ 南方のなかの南方評価をめぐって、研究成果報告書、査読なし、2010、pp.67-75

増野恵子、明治前期の地理教科書に見られる南洋像について、研究成果報告書、査読なし、2010、pp.76-86

安松みゆき、南方パラオと表現主義の画家マックス・ペヒシュタイン、研究成果報告書、査読なし、2010、pp.87-100

奥間政作、各種新聞史料より抜粋した「南方関連データ」解題・凡例、研究成果報告書、査読なし、2010、pp.101

南方関連新聞記事一覧、研究成果報告書、2010、査読なし、pp.102-189

奥間政作、「沖縄戦」と美術、美術史研究、査読有り、46巻、2008、pp.137-158

岡谷公二、「南洋群島」三代の系譜 土方久攻、杉浦佐助、儀間比呂志、『美術家

たちの「南洋群島」展図録、査読なし、2008、pp.6-11

青木茂、美術家たちの「南洋群島」雑感 いくらか書誌風に、『美術家たちの「南洋群島」展図録、査読なし、2008、pp.12-15

滝沢恭司、美術家と「南洋群島」と日本近代美術と、『美術家たちの「南洋群島」展図録、査読なし、2008、pp.16-24

丹尾安典、八重山古陶考、『八重山古陶-その風趣と気概-』展図録、査読なし、2007、pp.5-12

[学会発表](計1件)

奥間政作、「特攻」と「玉砕」 沖縄戦と藤田嗣治をめぐる一考察、明治美術学会、2008年12月13日、於早稲田大学

[図書](計1件)

岡谷公二、『南海漂蕩』、富山房インターナショナル、2007

6. 研究組織

(1) 研究代表者

丹尾 安典 (TANO YASUNORI)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：00129058

(2) 研究分担者

青木 茂 (AOKI SIGERU)
文星芸術大学・美術学部・教授
研究者番号：40159281

岩切 信一郎 (IWAKIRI SHINICHIRO)
東京文化短期大学・生活学科・教授
研究者番号：50289922

谷田 博幸 (TANIDA HIROYUKI)
滋賀大学・教育学部・教授
研究者番号：10179848

森 仁史 (MORI HITOSHI)
金沢美術工芸大学・大学院・教授
研究者番号：80552992

安松 みゆき (YASUMATSU MIYUKI)
別府大学・文学部・教授
研究者番号：40331095

(4) 研究協力者

阿利 直治 (ARI NAOJI)

石垣市教育委員会

岡谷 公二 (OKAYA KOUJI)
跡見学園女子大学・名誉教授

奥間 政作 (OKUMA SEISAKU)
早稲田大学大学院・文学研究科・博士後
期課程

尾崎 有紀子 (OZAKI YUKIKO)
早稲田大学・比較文学研究室・助手

河田 明久 (KAWATA AKIHISA)
千葉工業大学・教育センター・准教授

喜多 孝臣 (KITA TAKAOMI)
早稲田大学・會津八一記念博物館・助手

顔 娟英 (YAN JUANYING)
台湾中央研究所・歴史言語研究所・教授

向後 恵里子 (KOGO ERIKO)
早稲田大学・教育・総合科学学術院・助
手

迫内 祐司 (SAKOUCHI YUJI)
小杉放菴記念日光美術館・学芸員

志邨 匠子 (SHIMURA SHOKO)
東京造形大学・学芸員課程・特任教授

瀧井直子 (TAKII NAOKO)
早稲田大学・講師

滝沢 恭司 (TAKIZAWA KYOJI)
町田市立国際版画美術館・学芸員

増野 恵子 (MASHINO KEIKO)
早稲田大学・講師

村松 裕美 (MURAMATSU YUMI)
修復研究所 21・所長